

大津企業景況調査報告書

(第47回)

平成21年10月～12月期 実績

平成22年 1月～ 3月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について

(平成21年10月～12月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業100社にFAX方式による調査

2. 調査企業

産 業 別	調査対象企業数	有効回答企業数	回 収 率
建 設 業	20社	19社	95.0%
製 造 業	10社	10社	100.0%
卸 売 業	10社	9社	90.0%
小 売 業	30社	30社	100.0%
サービス業	30社	26社	86.7%
合 計	100社	94社	94.0%

3. 調査期間

調査対象期間は平成21年10月～12月とし、調査時点は平成21年11月20日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数としてDI指数を採用した。DI指数とはDiffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」のDI指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」のDI指数は、3ヵ月前との比較である。

「取引の問合せ」、「採算(経常利益)の水準」のDI指数は、過去比較でなく水準を聞いたものである。

景況感、3期連続改善するも足踏み状態

平成21年10月～12月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数としてDI指数（景気動向指数）を採用している。DI指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

景況感は、3期連続改善したが、業況判断DIはまだ低い水準で足踏み状態にある。昨年来、売上減少・採算悪化傾向が続いており、先行き不透明感から設備投資計画は低水準であり、厳しい状況が続いている。業績・採算の悪化から資金繰りが悪化している。製造業や建設業で業況が改善した一方、卸売業、小売業は悪化するなど業種による隔たりも大きい。

□ 業況判断DI（前年同期比）は3期連続改善するも低水準

「前年同期比でみた業況判断DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、平成21年1月～3月期を底にして3期連続改善したが、今期もまだ▲44と低い水準にある。需要が少し回復した製造業や建設業で業況が改善した一方、デフレ傾向で卸売業、小売業は悪化するなど業種による隔たりも大きい。

□ 売上DI（前年同期比）はすべての産業で大幅減少が続く

「前年同期比でみた売上DI(全体)」(「増加」－「減少」)は、前期の▲59から今期▲57で売上の低迷が続いている。業種別にみてもすべての産業で売上の大幅減少が続いている。

□ 採算DI（前年同期比）は卸売・小売業で悪化傾向が顕著

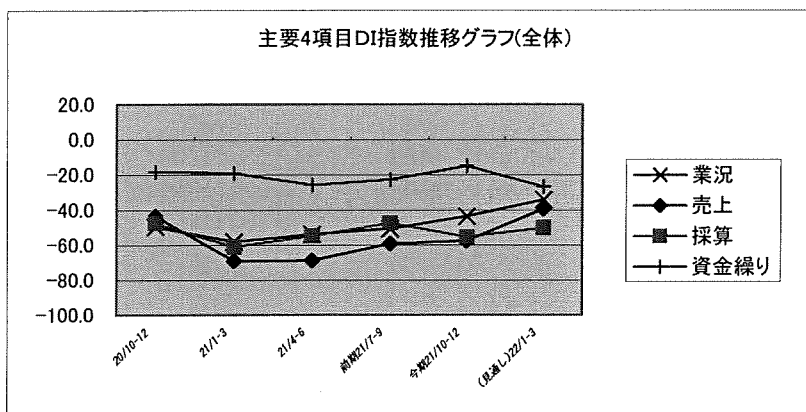
「前年同期比でみた採算(経常利益)DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は前期の▲47から今期▲55と再び悪化幅が増加した。業種別にみると、販売価格の下落(デフレ)傾向から卸売・小売業で悪化傾向が顕著である。

□ 資金繰りDI（3ヵ月前比）は悪化が続く

「3ヵ月前比でみた資金繰りDI(全体)」(「好転」－「悪化」)は前期の▲23から今期▲15と悪化傾向が続いている。中でも長期借入がやや難しくなっているのは景気の先行き不安の影響とみられる。業種別にみると、卸売業が厳しくなっている。

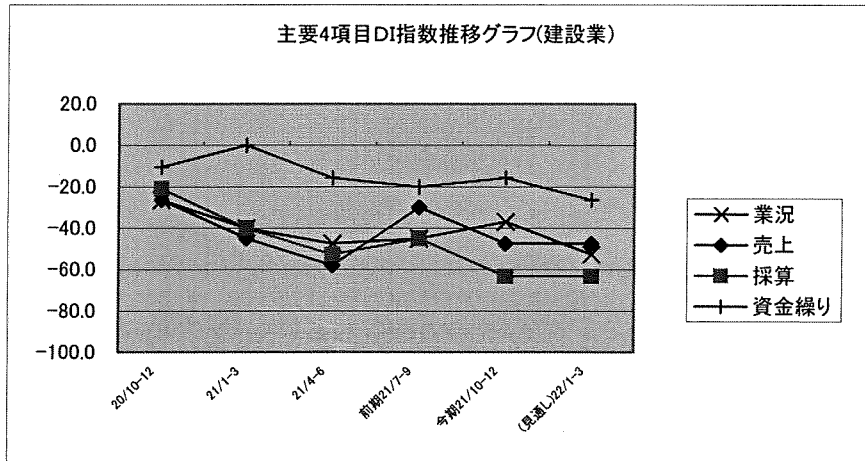
□ 従業員DI（前年同期比）は過剰感が和らぐ

「前年同期比でみた従業員DI(全体)」(「不足」－「過剰」)は前期の▲7から今期▲4と過剰感が和らいでいる。業種別にみると、製造業は再び▲40と人員過剰感が高まったが、小売業では+20と人員不足気味となっている。



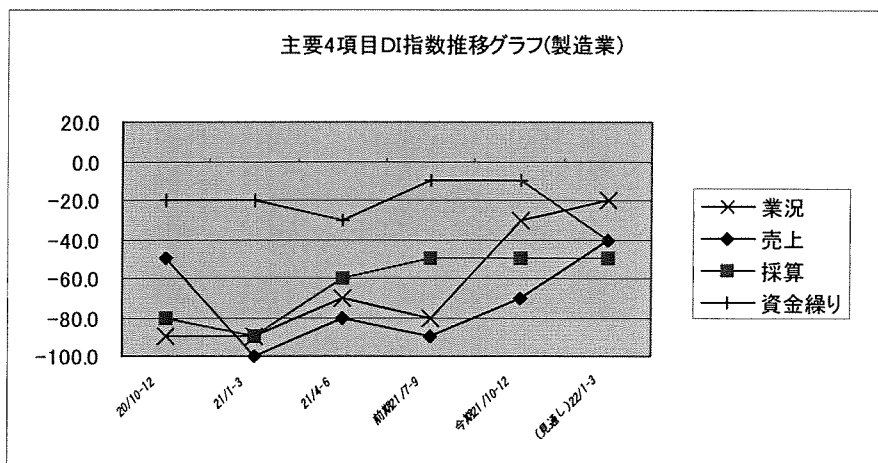
建設業

DI 指数をみると「業況」は前期▲45 から今期▲37 とやや改善している。個別指標をみると「売上」は前期の▲30 から今期▲47 と受注がさらに減少したが「取引の問合せ」は▲40 から▲37 とやや改善した。「採算」が▲45 から▲63 とさらに悪化しているのは、競争の激化で受注価格が低下しているためとみられる。「採算水準」は▲16 と赤字が続いている。「従業員」は前期の▲20 から今期▲5 と過剰感が薄れてきた。「資金繰り」は▲16 と悪化が続き、長期借入れがやや難しくなっている。



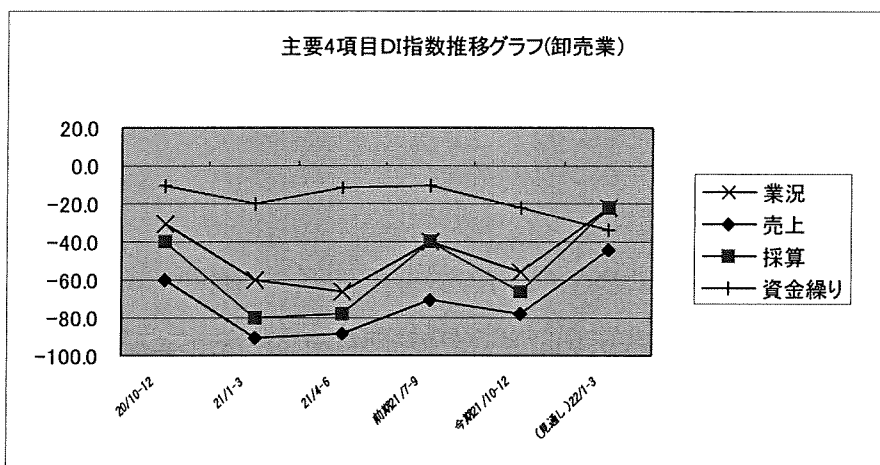
製造業

DI 指数をみると「業況」は前期▲80 から今期も▲30 と大幅に改善した。「売上」は前期▲90 から今期▲70 と受注が改善した。「採算」は前期▲50 から横ばいで「採算水準」は前期の±0(収支トントン)から+10(黒字)に改善した。「従業員」は▲20 から▲40 と人員過剰感が高い。「取引の問合せ」も▲40 から▲60 と低水準が続いている。業況の改善は大手製造業の持ち直しの影響で下請企業の受注・採算がやや改善したためとみられる。



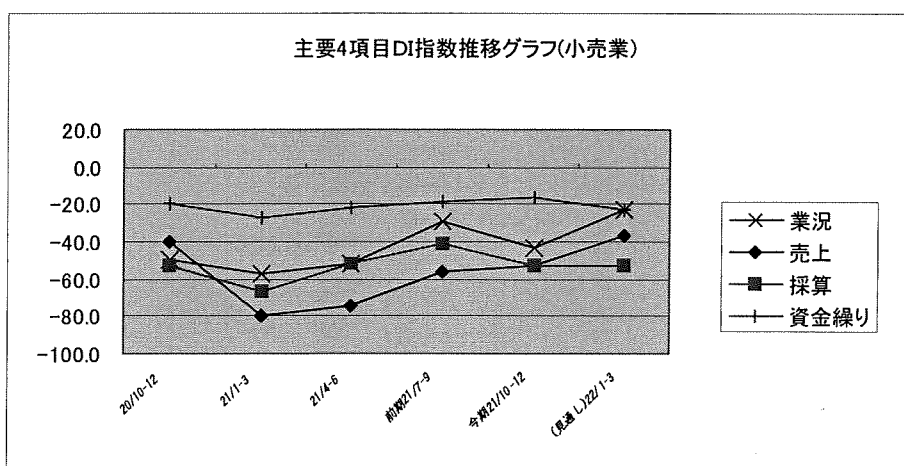
卸売業

DI 指数をみると「業況」は前期に▲40 と改善したが今期は▲56 と再び悪化した。「売上」は前期▲70 から今期▲78 と減少が続き、「採算」は前期▲40 から今期▲67 とさらに悪化した。これは、競争の激化で納入価格が下落しているためとみられる。「取引の問合せ」も▲40 から▲56 と悪化した。「資金繰り」も▲10 から▲22 とさらに悪化した。「従業員」は前期の▲10 から今期▲22 と過剰感が再び出ている。



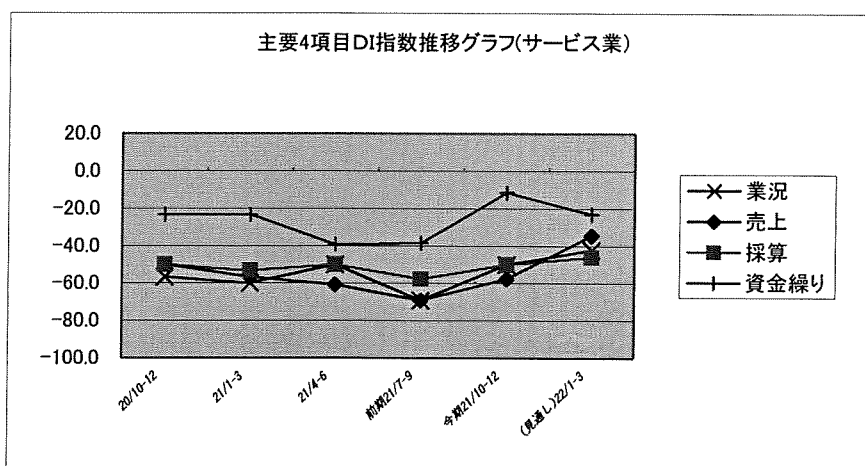
小売業

DI 指数をみると「業況」は前期に▲30 と改善したが、今期は▲43 と再び悪化した。「売上」は▲56 から▲53 と低迷が続き、「採算」も▲41 から▲53 とさらに悪化した。「取引の問合せ」も▲33 から▲50 とさらに悪化した。「従業員」は+11(不足) から+20 と不足感が高まっている。「資金繰り」は▲19 から▲17 と悪化が続いている。雇用情勢の悪化が個人消費に打撃を与えるとともに、競争激化で販売価格が下落(デフレ)傾向になっていることが、小売業にとって厳しい情勢になっているとみられる。



サービス業

DI 指数をみると「業況」は前期、新型インフルエンザの影響等で過去最悪水準の▲69 となったが、今期は▲50 に回復したが、まだ水準は低い。「売上」は前期の▲69 から今期▲58 に改善し、「採算」も▲58 から▲50 に改善した。「従業員」は前期▲8 から今期▲12 と人員過剰感がやや強まった。「資金繰り」は▲39 から▲12 とまだ厳しくなっている。



来期(3 ヶ月先)の見通しについて、全体の「業況」は今期から 10 ポイント改善して▲34 となる見通しをしている。「売上」は悪化幅が 18 ポイント縮小して▲39、「採算」も悪化幅が 5 ポイント和らぎ▲50、「従業員」は横ばいで▲5 の見込み。「資金繰り」は 12 ポイント悪化する▲27 と見通しを立てている。業種別にみると、公共工事の減少が予想される建設業や新型インフルエンザやデフレの影響が懸念されるサービス業は慎重な見方をしているが、その他の産業では売上や採算がやや回復して業況もやや改善するとみている。

国内景気が踊り場局面に入りつつあり、円高とデフレの逆風が強まる中で、年明けから年度末にかけて、不透明感が広がっている。

来期の設備投資については、設備投資計画があると回答した企業の割合は前期の 16% からやや増えて 19%。建設業で前期の 30% から今期 21% に減少した一方、製造業では前期の 10% から今期 20% に増加した。投資企業の投資内容は更新投資が 38% で最も多く、合理化投資と能力増強投資がともに 19%。投資方針は、前期は「景気動向によって見直す」が 56% であったが、今期は 33% に減り、「今後の景気にかかわらず計画通り投資を行う」とする企業が前期も今期も 38% となった。これは、更新投資目的が多くなったためとみられる。

(中小企業診断士 田中清行)

(今の経済情勢に対する意見)

今の経済情勢に対する意見を寄せた企業は12社であった。

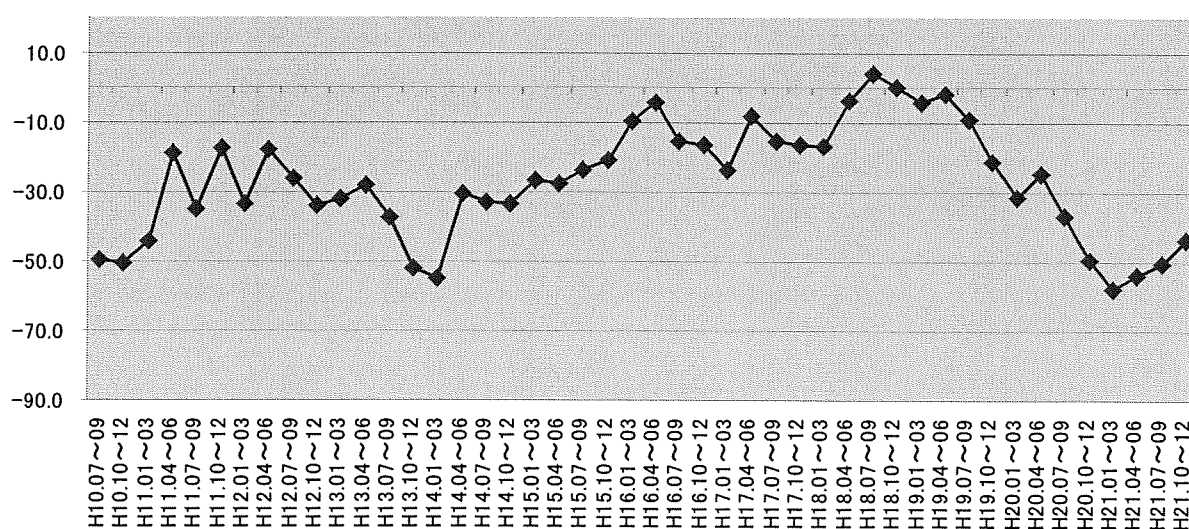
- ・ 経済が政治により振り回されそうです。助成金等も、どうなることやら。
- ・ インフルエンザ流行にて高校クラブ、各活動の中止にて貸具等の激減
- ・ 景気情勢が低迷しているとの情報によって、購買意欲が減退している。何かプラス材料を取り上げて購買意欲を盛り上げていただきたい。
- ・ 政府は零細企業を支援することを考えてもらいたい！
- ・ もっと多くの催しもの、〇〇大会等を実施し活気のある天津市にしたい。
- ・ 政権交代、郵政逆戻り、日本航空、公共事業費の削減等不況、不安要因により、予想は相当困難である。今期、来期まではいいが、先の予定は全く見えないのではないかと。じわりじわり全体が沈下していく予想も否定できない。
- ・ 政権が変わりあしぶみしている状態がある。どちらかといえば、停滞ぎみである。
- ・ 飲食店ですが、以前よりヒマな日といそがしい日の差が大きくなってきている気がします。来る時はことわらなければならないぐらい、来ない日は全く来店がないことがあり、いかに効率が良くお客様を来店してもらえるか悩んでおります。
- ・ 現状の政局では先行き見通すことが困難ですが大手メーカー等は業種にもよりますが、黒字に転換されている企業も出てきた。中間業者及び末端の企業までも採算がとれるような景気が早く来る様に願っております。
- ・ 今がどん底だと考えていますが、来期以降に悪化しさらなるどん底におちいる可能性が高く、企業努力だけではどうすることも出来ない状況です。
- ・ 世間では景気が回復しつつあるとの報道もありますが、弊社のまわりの企業はまだまだ景気が低迷しており、受注がなかなか決まらない。(見積がなかなかありません) 来年春以降は良くなると期待していますが…。
- ・ 事業仕分けによる公共事業の削減の度合いがどこまで拡大するのか将来展望に不安がある。

D I 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	10-12月期 動 向	1-3 月期 見通し	10-12月期 動 向	1-3 月期 見通し	10-12月期 動 向	1-3 月期 見通し
全 体	▲ 43.6	▲ 34.0	▲ 57.4	▲ 39.4	▲ 55.3	▲ 50.0
建 設 業	▲ 36.8	▲ 52.6	▲ 47.4	▲ 47.4	▲ 63.2	▲ 63.2
製 造 業	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 70.0	▲ 40.0	▲ 50.0	▲ 50.0
卸 売 業	▲ 55.6	▲ 22.2	▲ 77.8	▲ 44.4	▲ 66.7	▲ 22.2
小 売 業	▲ 43.3	▲ 23.3	▲ 53.3	▲ 36.7	▲ 53.3	▲ 53.3
サービス業	▲ 50.0	▲ 42.3	▲ 57.7	▲ 34.6	▲ 50.0	▲ 46.2
	昨年の同期との比較		昨年の同期との比較		昨年の同期との比較	
	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	10-12月期 動 向	1-3 月期 見通し	10-12月期 動 向	1-3 月期 見通し	10-12月期 動 向	1-3 月期 見通し
全 体	▲ 19.1	▲ 21.3	▲ 47.9	▲ 50.0	▲ 4.3	▲ 5.3
建 設 業	▲ 15.8	▲ 15.8	▲ 36.8	▲ 57.9	▲ 5.3	0.0
製 造 業	10.0	▲ 10.0	▲ 60.0	▲ 50.0	▲ 40.0	▲ 50.0
卸 売 業	▲ 44.4	▲ 22.2	▲ 55.6	▲ 55.6	▲ 22.2	▲ 22.2
小 売 業	▲ 33.3	▲ 36.7	▲ 50.0	▲ 46.7	20.0	16.7
サービス業	▲ 7.7	▲ 11.5	▲ 46.2	▲ 46.2	▲ 11.5	▲ 11.5
	該当期について		該当期について		昨年の同期との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	10-12月期 動向	1-3月期 見通し	10-12月期 動向	1-3月期 見通し	10-12月期 動向	1-3月期 見通し
全 体	▲ 14.9	▲ 26.6	▲ 12.8	▲ 12.8	▲ 7.4	▲ 3.2
建設業	▲ 15.8	▲ 26.3	▲ 21.1	▲ 26.3	▲ 10.5	▲ 10.5
製造業	▲ 10.0	▲ 40.0	▲ 10.0	▲ 20.0	0.0	0.0
卸売業	▲ 22.2	▲ 33.3	▲ 22.2	▲ 11.1	▲ 22.2	▲ 11.1
小売業	▲ 16.7	▲ 23.3	0.0	0.0	▲ 3.3	3.3
サービス業	▲ 11.5	▲ 23.1	▲ 19.2	▲ 15.4	▲ 7.7	▲ 3.8
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

本調査開始(H10.4～6期)以降 業況DI指数推移グラフ(全体)



大津商工会議所

〒520-0806 大津市打出浜2番1号

コラボしが21・9F

TEL 077-511-1501

FAX 077-526-0795

URL <http://www.otsucci.or.jp/>